

2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2022年10月28日

上場会社名 株式会社ZOZO 上場取引所 東  
 コード番号 3092 URL https://corp.zozo.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 澤田 宏太郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長兼CFO (氏名) 柳澤 孝旨 (TEL) 043(213)5171  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 2022年11月28日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)  
 (百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	83,767	9.9	27,210	14.4	27,433	15.5	19,067	15.3
2022年3月期第2四半期	76,212	14.6	23,791	19.5	23,759	19.1	16,541	18.6

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 19,295百万円(16.1%) 2022年3月期第2四半期 16,613百万円(18.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	63.60	—
2022年3月期第2四半期	55.14	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	129,142	63,707	49.2
2022年3月期	127,276	55,099	43.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 63,575百万円 2022年3月期 54,932百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	22.00	—	36.00	58.00
2023年3月期	—	24.00			
2023年3月期(予想)			—	36.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	181,300	9.1	51,500	3.7	51,500	3.7	35,900	4.1	119.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年3月期2Q	311,644,285株	2022年3月期	311,644,285株
2023年3月期2Q	11,787,504株	2022年3月期	11,840,467株
2023年3月期2Q	299,819,404株	2022年3月期2Q	299,978,462株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料8ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、2022年10月28日に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容については、当日使用する決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	8
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	9
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	15
(継続企業の前提に関する注記)	15
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	15
(会計方針の変更)	15

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当期の経営成績

[表1] 前年同期比

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	前年同期比
商品取扱高	229,507 (109.8%)	251,138 (110.4%)	9.4%
商品取扱高(その他商品取扱高除く)	209,067 (100.0%)	227,481 (100.0%)	8.8%
売上高	76,212 (36.5%)	83,767 (36.8%)	9.9%
売上総利益	71,976 (34.4%)	78,906 (34.7%)	9.6%
営業利益	23,791 (11.4%)	27,210 (12.0%)	14.4%
経常利益	23,759 (11.4%)	27,433 (12.1%)	15.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	16,541 (7.9%)	19,067 (8.4%)	15.3%

( )内は商品取扱高(その他商品取扱高除く)に対する割合です。

当社グループは、「世界中をカッコよく、世界中に笑顔を。」という企業理念のもと、日本最大級のファッションECサイト「ZOZOTOWN」、及びファッションメディア「WEAR」の運営を中心に事業活動を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染拡大の落ち着きに伴う外出機会の増加ならびに洋服に対する需要の増加により、アパレル業界(特にオフライン)が活気づいた市況となりました。この状況下で当社グループは、ZOZOTOWNにおいてはユニークユーザー数拡大及びコンバージョンレート(ユニークユーザーの購買率)向上を目指し、ユーザーとブランド双方にとって魅力的なサイト作りに一層注力してまいりました。具体的には、2022年5月・9月にセールイベント「ZOWEEK」の実施(2022年5月14日～23日の10日間、同年9月13日～19日及び22日～25日の11日間)ならびに夏の本セール開始期間にはTVCMを放送し集客を強化する等、ZOZOTOWNにおける販売力の最大化に取り組みました。加えて、引き続き多様化するユーザーニーズに対応できるよう積極的に幅広いジャンルの新規ブランドの出店を進めてまいりました。

また、カテゴリー強化の取り組みとしては、コスメカテゴリー強化を図る「ZOZOCOSME」に注力しております。ZOZOCOSMEは2022年9月時点において国内外の700以上のコスメブランドを取り扱っております。今後も、商品取扱高拡大のために新規ブランド出店を積極的に継続してまいります。また、高精度で肌の色を計測できるツール「ZOZOGLASS」を用いて、計測した肌の色に最も近いファンデーションならびにコンシーラーの色を提案する購入アシスト機能を実装しており、ユーザーに新しい購入体験を提供しております。

PayPayモールについては、前連結会計年度までに獲得した顧客の定着や、モールを運営するヤフー(株)による積極的な販促費用投下が続ぎ、順調に売上を伸ばしております。

BtoB事業については、前第4四半期連結会計期間に商品取扱高の多くを占めるブランドの支援撤退があったものの、支援を継続しているブランド各社においては自社ECサイト活用の積極化が続いている状況です。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における商品取扱高は251,138百万円(前年同期比9.4%増)、その他商品取扱高を除いた商品取扱高は227,481百万円(同8.8%増)となりました。売上高は83,767百万円(同9.9%増)、売上総利益は78,906百万円(同9.6%増)となりました。売上総利益の商品取扱高(その他商品取扱高除く)に対する割合(粗利率)は34.7%となり、前年同期と比較して0.3ポイント上昇いたしました。

売上高については、商品取扱高に対する売上高比率が高い買取・製造販売とUSED販売、広告事業の成長ならびに商品取扱高に対する売上高比率が低いBtoB事業の商品取扱高における構成比が減少した事が主な要因となり、前年同期比で商品取扱高(その他商品取扱高除く)の成長率を上回る伸び率となりました。

粗利率上昇の主な要因は、売上高について記載の通り、買取・製造販売とUSED販売、広告事業の成長ならびに粗利率の低いBtoB事業の商品取扱高が商品取扱高(その他商品取扱高除く)における構成比が減少した事になります。

販売費及び一般管理費は51,696百万円(前年同期比7.3%増)、商品取扱高(その他商品取扱高除く)に対する割合は22.7%と前年同期と比較して0.3ポイント低下しております。前年同期比で販管費率が低下している主な理由は以下のとおりです。なお、以下の対商品取扱高比は、各販管費項目を商品取扱高(その他商品取扱高除く)で除し

た結果となります。

・上昇(悪化)要因

第1四半期連結会計期間に発生した物当流拠点拡張に伴う備品購入等のスポット費用の計上ならびに、システムリプレイス・トランザクションの増加に伴うクラウドサーバ利用量増加に伴う通信費の増加等によってその他(対商品取扱高)が0.3ポイント上昇。

・低下(改善)要因

① 物流拠点内の作業効率向上等により、人件費のうち物流関連費(対商品取扱高)が0.4ポイント低下。

② 出荷単価が前期実績を上回った事により、荷造運賃(対商品取扱高)が0.3ポイント低下。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の営業利益は27,210百万円(前年同期比14.4%増)、営業利益率は対商品取扱高(その他商品取扱高除く)比12.0%と前年同期と比較して0.6ポイント上昇しております。また、経常利益は27,433百万円(同15.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は19,067百万円(同15.3%増)となりました。

なお、当社グループはEC事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しておりますが、単一セグメント内の各事業区分の業績を以下のとおり示しております。

各事業別の業績は、以下のとおりです。

[表2] 事業別前年同期比

事業別	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)			当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)			取扱高 前年同期比 (%)	売上高 前年同期比 (%)
	取扱高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	取扱高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)		
ZOZOTOWN事業	177,454	77.3	56,119	197,444	78.6	62,194	11.3	10.8
(買取・製造販売)	1,295	0.6	1,278	1,790	0.7	1,735	38.2	35.7
(受託販売)	170,556	74.3	49,313	188,859	75.2	53,771	10.7	9.0
(USED販売)	5,602	2.4	5,527	6,795	2.7	6,687	21.3	21.0
PayPayモール	19,154	8.4	5,595	22,739	9.1	6,661	18.7	19.0
BtoB事業	12,458	5.4	2,426	7,296	2.9	1,258	△41.4	△48.1
広告事業	—	—	2,851	—	—	3,493	—	22.5
その他除く 小計	209,067	91.1	66,992	227,481	90.6	73,608	8.8	9.9
その他	20,439	8.9	9,220	23,657	9.4	10,159	15.7	10.2
合計	229,507	100.0	76,212	251,138	100.0	83,767	9.4	9.9

① ZOZOTOWN事業

ZOZOTOWN事業は、「買取・製造販売」「受託販売」「USED販売」の3つの事業形態で構成されております。「買取・製造販売」は当社グループが仕入れを行い、在庫リスクを負担し販売を行う事業形態になります。各ブランドからファッション商材を仕入れる形態と、MS(マルチサイズ)等、当社グループが商材を発注する形態がこちらに該当します。「受託販売」は各ブランドの商品を受託在庫として預かり、受託販売を行っております。「USED販売」は主に個人ユーザー等から中古ファッション商材を買取り、販売を行っております。新品商品購入促進のための付加価値サービスと位置付けております。

当社では、ZOZOTOWN事業を持続的に成長させていくためには「購入者数の拡大」及び「ファッション消費におけるZOZOTOWN利用率上昇」が重要なファクターであると認識しております。そのために、ユーザーとブランド双方にとって魅力的なサイト作りに取り組んでおります。

なお、ZOZOTOWN事業に係る主なKPIの推移は以下のとおりです。

(ショップ数等)

[表3] ショップ数、ブランド数の推移

	前連結会計年度				当連結会計年度			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
ZOZOTOWN出店ショップ数(注)1	1,488	1,502	1,516	1,510	1,523	1,532	—	—
内) 買取・製造販売(注)2	20	24	24	24	25	27	—	—
受託販売	1,468	1,478	1,492	1,486	1,498	1,505	—	—
ブランド数(注)1、2	8,490	8,451	8,481	8,433	8,512	8,455	—	—

(注) 1 四半期会計期間末日時点の数値を使用しております。

2 プライベートブランド「ZOZO」及び「マルチサイズ」は含んでおりません。

当第2四半期連結会計期間に新規出店したショップ数は24ショップ(純増9ショップ)となりました。主な新規出店ショップは世界的ファッションブランドANNA SUIが展開するコスメラインの「ANNA SUI COSMETICS」、イギリスの高級アウトドアブランド「Barbour」、アメリカ発スニーカーを中心としたフットウェアで高い知名度を誇る「SKECHERS」です。

(年間購入者数)

[表4] 年間購入者数の推移

	前連結会計年度				当連結会計年度			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
年間購入者数(注)2	9,730,162	9,890,784	10,103,351	10,418,331	10,619,934	10,859,876	—	—
(前年同期比)	1,067,602	1,085,629	963,555	932,662	889,772	969,092	—	—
(前四半期比)	244,493	160,622	212,567	314,980	201,603	239,942	—	—
アクティブ会員数(注)3	8,367,073	8,507,997	8,711,879	9,043,194	9,269,080	9,545,087	—	—
(前年同期比)	1,143,320	1,073,468	937,939	905,465	902,007	1,037,090	—	—
(前四半期比)	229,344	140,924	203,882	331,315	225,886	276,007	—	—
ゲスト購入者数	1,363,089	1,382,787	1,391,472	1,375,137	1,350,854	1,314,789	—	—
(前年同期比)	△75,718	12,161	25,616	27,197	△12,235	△67,998	—	—
(前四半期比)	15,149	19,698	8,685	△16,335	△24,283	△36,065	—	—

(注) 1 集計期間は会計期間末日以前の直近1年間としております。

2 年間購入者数は過去1年以内に1回以上購入したアクティブ会員数とゲスト購入者数の合計です。

3 アクティブ会員数は過去1年以内に1回以上購入した会員数になります。

4 「PayPayモール」の購入者は含んでおりません。

当第2四半期連結会計期間において、アクティブ会員数が前年同期比及び前四半期比でそれぞれ増加したことにより、年間購入者数も増加いたしました。アクティブ会員数の順調な増加は、2022年5月・9月に実施したZOZOWEEK開催期間ならびに同年6月開始の「夏本セール」期間のTVCM放送ならびにWEB上の広告等により、集客を強化したことが要因です。

(年間購入金額及び年間購入点数)

[表5] 年間購入金額、年間購入点数の推移

	前連結会計年度				当連結会計年度			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
年間購入金額(全体) (注)1、2、3、4	42,363	42,343	42,549	42,403	42,559	42,401	—	—
(前年同期比)	△6.1%	△4.5%	△2.9%	△1.0%	0.5%	0.1%	—	—
(前四半期比)	△1.1%	△0.0%	0.5%	△0.3%	0.4%	△0.4%	—	—
年間購入点数(全体) (注)1、2、3	11.4	11.5	11.6	11.6	11.6	11.4	—	—
(前年同期比)	△3.6%	△2.0%	△0.7%	0.1%	1.5%	△1.4%	—	—
(前四半期比)	△1.3%	1.0%	0.9%	△0.4%	0.0%	△1.8%	—	—
年間購入金額(既存会員) (注)1、2、3、4	49,257	49,037	49,064	49,254	49,407	49,331	—	—
(前年同期比)	△5.6%	△4.8%	△3.9%	△1.8%	0.3%	0.6%	—	—
(前四半期比)	△1.8%	△0.4%	0.1%	0.4%	0.3%	△0.2%	—	—
年間購入点数(既存会員) (注)1、2、3	13.2	13.3	13.4	13.4	13.4	13.2	—	—
(前年同期比)	△2.8%	△2.2%	△1.7%	△0.7%	1.3%	△0.9%	—	—
(前四半期比)	△2.2%	0.3%	0.8%	0.4%	△0.3%	△1.9%	—	—

(注) 1 集計期間は会計期間末日以前の直近1年間としております。

2 アクティブ会員1人当たりの指標となっております。

3 「PayPayモール」の購入者は含んでおりません。

4 円単位となっております。

当第2四半期連結会計期間において、全体ならびに既存会員の年間購入金額が前年同期比で増加しておりますが、過去1年間における商品単価の上昇が主な要因です。また、全体の年間購入金額ならびに既存会員の年間購入金額が前四半期比で減少しておりますが、当第2四半期連結会計期間において商品単価が上昇した事によって、複数商品を同時に注文する合わせ買いの割合が減り、年間購入点数が減少した事が主な要因です。

(平均商品単価等)

[表6] 平均商品単価、平均出荷単価、1注文あたり購入点数、出荷件数の推移

	前連結会計年度				当連結会計年度			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
平均商品単価 (注)1、2、3	3,490	3,264	4,167	3,752	3,552	3,487	—	—
(前年同期比)	1.4%	△3.5%	△3.1%	0.1%	1.8%	6.8%	—	—
平均出荷単価 (注)1、2、3	7,501	7,346	8,592	7,974	7,699	7,566	—	—
(前年同期比)	1.2%	△0.3%	0.9%	△0.2%	2.6%	3.0%	—	—
1注文あたり購入点数 (注)1、3	2.15	2.25	2.06	2.13	2.17	2.17	—	—
(前年同期比)	△0.1%	3.2%	4.1%	△0.3%	0.9%	△3.6%	—	—
出荷件数(注)1、3	12,085,053	11,816,663	13,049,762	12,800,550	13,123,988	12,742,183	—	—
(前年同期比)	5.3%	7.3%	9.1%	14.7%	8.6%	7.8%	—	—

(注) 1 四半期会計期間の数値を使用しております。

2 円単位となっております。

3 「PayPayモール」は含んでおりません。

当第2四半期連結会計期間の平均商品単価につきましては、前年同期比で増加いたしました。セール比率が減少した事が主な要因です。平均出荷単価については1注文あたりの購入点数が減少したものの、その影響以上に商品単価が増加した事によって前年同期比で増加しております。

## i. 買取・製造販売

当第2四半期連結累計期間の商品取扱高は1,790百万円（前年同期比38.2%増）、商品取扱高に占める割合は0.7%（前年同期実績0.6%）となりました。売上高は1,735百万円（前年同期比35.7%増）となりました。2022年9月末現在、買取・製造販売のZOZOTOWN出店ショップは27ショップ（2022年6月末25ショップ）を運営しております。

## ii. 受託販売

当第2四半期連結累計期間の商品取扱高は188,859百万円（前年同期比10.7%増）、商品取扱高に占める割合は75.2%（前年同期実績74.3%）となりました。売上高（受託販売手数料）は53,771百万円（前年同期比9.0%増）となりました。2022年9月末現在、受託販売のZOZOTOWN出店ショップは1,505ショップ（2022年6月末1,498ショップ）を運営しております。

## iii. USED販売

当第2四半期連結累計期間の商品取扱高は6,795百万円（前年同期比21.3%増）、商品取扱高に占める割合は2.7%（前年同期実績2.4%）となりました。売上高は6,687百万円（前年同期比21.0%増）となりました。

## ② PayPayモール

ヤフー株が運営するオンラインショッピングモール「PayPayモール」へZOZOTOWNを出店しております。当第2四半期連結累計期間の商品取扱高は22,739百万円（前年同期比18.7%増）、商品取扱高に占める割合は9.1%（前年同期実績8.4%）となりました。売上高（受託販売手数料）は6,661百万円（前年同期比19.0%増）となりました。

## ③ BtoB事業

BtoB事業では、ブランドの自社ECサイトの構築及び運営・物流業務を受託しております。当第2四半期連結累計期間の商品取扱高は7,296百万円（前年同期比41.4%減）、商品取扱高に占める割合は2.9%（前年同期実績5.4%）となりました。売上高（受託販売手数料）は1,258百万円（前年同期比48.1%減）となりました。2022年9月末現在、受託サイト数は39サイト（2022年6月末40サイト）となっております。

## ④ 広告事業

広告事業は、ZOZOTOWN及びWEARのユーザーリーチ基盤を活用し、主に取引先ブランド各社に広告枠を提供し、広告収入を得る事業形態となります。当第2四半期連結累計期間の売上高は3,493百万円（前年同期比22.5%増）となりました。

WEARについては、引き続きユーザーの拡大及びコンテンツの拡充に注力しており、2022年9月末時点のアプリダウンロード数は1,600万件を超え、月間利用者数ともに堅調に推移しております。

## ⑤ その他

その他商品取扱高には、PayPayモールにおけるZOZOTOWN店を除いたファッションカテゴリーストアのうち、ZOZOオプション（当社提案をもとにPayPayモール内で実施する特集企画への参加等の営業支援の恩恵を受ける事が出来るサービス）の契約を結んだストアの流通総額、当社連結子会社の自社ECサイトにおける流通総額、ZOZOTOWNからオフライン店舗への送客をする仕組み「ZOZOMO」を経由した流通総額（前第4四半期連結会計期間より計上）及び米国で有料販売をしている「ZOZOSUIT」の流通総額を計上しております。当第2四半期連結累計期間のその他商品取扱高は23,657百万円、商品取扱高に占める割合は9.4%（前年同期実績8.9%）となりました。その他売上高には、ZOZOTOWN事業に付随した事業の売上（送料収入、決済手数料収入等）及び前述のその他商品取扱高に関連した売上等が計上されており、当第2四半期連結累計期間のその他売上高は10,159百万円（前年同期比10.2%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ① 資産、負債及び純資産の状況

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当第2四半期連結会計期間	増減率
総資産	127,276	129,142	1.5%
負債	72,177	65,434	△9.3%
純資産	55,099	63,707	15.6%

## (総資産)

総資産については、前連結会計年度末に比べ1,865百万円増加（前連結会計年度末比1.5%増）し、129,142百万円となりました。流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,469百万円増加（同1.4%増）し、103,775百万円となりました。主な増減要因としては、現金及び預金の増加1,367百万円、売掛金の減少1,509百万円、商品及び製品の増加1,118百万円などによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ396百万円増加（同1.6%増）し、25,367百万円となりました。主な増減要因としては、有形固定資産の増加2,499百万円、投資その他の資産の減少1,865百万円などによるものであります。

## (負債)

負債については、前連結会計年度末に比べ6,743百万円減少（前連結会計年度末比9.3%減）し、65,434百万円となりました。流動負債は、前連結会計年度末に比べ7,225百万円減少（同10.9%減）し、58,946百万円となりました。主な減少要因としては、受託販売預り金の減少1,716百万円、未払法人税等の減少1,722百万円、賞与引当金の減少1,169百万円などによるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ482百万円増加（同8.0%増）し、6,487百万円となりました。主な増加要因としては、退職給付に係る負債の増加289百万円などによるものであります。

## (純資産)

純資産については、前連結会計年度末に比べ8,608百万円増加（前連結会計年度末比15.6%増）し、63,707百万円となりました。主な増減要因としては、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加19,067百万円、剰余金の配当による減少10,792百万円などによるものであります。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末から1,367百万円増加し、66,888百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とその要因は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	増減率
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,278	15,605	2.1%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△558	△3,896	597.7%
財務活動によるキャッシュ・フロー	△28,571	△10,630	△62.8%

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は15,605百万円となりました。主な増加要因としては、税金等調整前四半期純利益27,406百万円の計上などによるものであります。一方、主な減少要因としては受託販売預り金の増加額1,716百万円、法人税等の支払額7,402百万円があったことなどによるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は3,896百万円となりました。これは有形固定資産の取得による支出3,415百万円があったことなどによるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は10,630百万円となりました。これは配当金の支払額10,790百万円があったことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年4月27日に発表いたしました通期の連結業績予測数値に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	65,520	66,888
売掛金	30,609	29,099
商品及び製品	2,060	3,178
原材料及び貯蔵品	27	53
その他	4,086	4,554
流動資産合計	102,305	103,775
固定資産		
有形固定資産	11,284	13,783
無形固定資産		
のれん	1,796	1,623
その他	824	760
無形固定資産合計	2,621	2,383
投資その他の資産	11,065	9,200
固定資産合計	24,971	25,367
資産合計	127,276	129,142
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	373	354
受託販売預り金	23,447	21,731
短期借入金	20,200	20,200
未払法人税等	8,259	6,536
賞与引当金	1,726	556
役員賞与引当金	59	34
事業整理損失引当金	231	45
その他	11,873	9,487
流動負債合計	66,172	58,946
固定負債		
退職給付に係る負債	3,631	3,921
資産除去債務	2,274	2,278
その他	98	287
固定負債合計	6,005	6,487
負債合計	72,177	65,434

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,359	1,359
資本剰余金	1,457	1,328
利益剰余金	97,067	105,334
自己株式	△44,784	△44,558
株主資本合計	55,100	63,464
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	23	73
繰延ヘッジ損益	—	130
為替換算調整勘定	79	159
退職給付に係る調整累計額	△270	△251
その他の包括利益累計額合計	△168	111
新株予約権	22	19
非支配株主持分	144	113
純資産合計	55,099	63,707
負債純資産合計	127,276	129,142

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	76,212	83,767
売上原価	4,236	4,860
売上総利益	71,976	78,906
販売費及び一般管理費	48,184	51,696
営業利益	23,791	27,210
営業外収益		
受取利息	5	4
受取賃借料	143	1
為替差益	—	45
業務支援料	9	5
リサイクル収入	16	15
補助金収入	19	18
ポイント失効益	22	59
貸倒引当金戻入益	—	171
その他	15	23
営業外収益合計	232	345
営業外費用		
支払利息	36	39
貸倒引当金繰入額	0	7
支払賃借料	136	1
支払手数料	13	6
為替差損	1	—
投資事業組合運用損	76	68
営業外費用合計	264	122
経常利益	23,759	27,433
固定資産売却益	0	—
特別利益合計	0	—
特別損失		
固定資産除売却損	5	27
特別損失合計	5	27
税金等調整前四半期純利益	23,754	27,406
法人税、住民税及び事業税	6,542	6,162
法人税等調整額	651	2,207
法人税等合計	7,193	8,370
四半期純利益	16,561	19,035
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	19	△31
親会社株主に帰属する四半期純利益	16,541	19,067

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
四半期純利益	16,561	19,035
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	50
繰延ヘッジ損益	—	130
為替換算調整勘定	38	59
退職給付に係る調整額	14	19
その他の包括利益合計	52	259
四半期包括利益	16,613	19,295
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	16,593	19,326
非支配株主に係る四半期包括利益	19	△31

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	23,754	27,406
減価償却費	932	938
のれん償却額	201	212
株式報酬費用	51	45
貸倒引当金繰入額	0	7
貸倒引当金戻入額	—	△171
投資事業組合運用損益 (△は益)	76	68
固定資産除売却損益 (△は益)	5	27
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,080	△1,177
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△40	△25
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△361	—
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△139	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	270	317
事業整理損失引当金の増減額 (△は減少)	—	△201
受取利息及び受取配当金	△5	△4
支払利息	36	39
支払手数料	13	6
為替差損益 (△は益)	0	△44
売上債権の増減額 (△は増加)	7,065	1,534
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△308	△1,095
前払費用の増減額 (△は増加)	△1,358	△746
仕入債務の増減額 (△は減少)	150	△72
受託販売預り金の増減額 (△は減少)	△1,441	△1,716
未払金の増減額 (△は減少)	△1,113	△1,034
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△1,478	△1,056
その他	168	△215
小計	25,400	23,044
利息及び配当金の受取額	5	3
利息の支払額	△36	△39
法人税等の支払額	△10,090	△7,402
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,278	15,605
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△664	△3,415
無形固定資産の取得による支出	△18	△294
敷金及び保証金の回収による収入	195	22
敷金及び保証金の差入による支出	△2	△53
投資有価証券の取得による支出	△68	△314
関係会社出資金の払込による支出	—	△13
貸付金の回収による収入	1	173
その他	△1	△1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△558	△3,896

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	100	—
長期借入れによる収入	100	184
長期借入金の返済による支出	△1	△24
支払手数料の支出	△9	—
自己株式の取得による支出	△31,997	△0
新株予約権の発行による収入	31	—
新株予約権の行使による自己株式の処分による収入	11,143	—
配当金の支払額	△7,937	△10,790
財務活動によるキャッシュ・フロー	△28,571	△10,630
現金及び現金同等物に係る換算差額	13	166
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△13,837	1,246
現金及び現金同等物の期首残高	61,648	65,520
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	121
現金及び現金同等物の四半期末残高	47,810	66,888

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。